

- 1 ワーカーズ・コレクティブと生活クラブ
- 2-3 レトロな商店街で
お弁当屋[キッチンとまと]
- 4 2025 年国際協同組合年

ワーカーズ・コレクティブと生活クラブ生協

ワーカーズ・コレクティブは、1980年代、神奈川で生活クラブ生協が「働く人の協同組合を作ろう」と提起し、生協店舗の業務委託をすることで開始しました。

その後、首都圏を中心として多様な業務を委託することでワーカーズ・コレクティブが増えてきました。

埼玉でも組合員への食材の配達の業務や店舗の運営（デポー）など、多様な業務をワーカーズ・コレクティブが受託し、また、業務委託の事業以外にも地域のニーズに応える事業を展開し、現在40団体ほどになっています。



生活クラブの食材を配達する業務を担う、ワーカーズ・コレクティブつくし



多様な業務を
ワーカーズ・コレクティブが
受託している



思いは共通「人と地域」

生活クラブは牛乳の共同購入から始まり、誰もが健康に、安心して住み続けられる社会を求めてきました。その活動は「社会運動」であり、先輩の組合員から脈々と受け継がれ50年が経ちました。

「社会運動」といっても私たちが特別なことを行っているわけではありません。私たちが求めているものは、極々、人の生活として当たり前のことにすぎません。有害性のわかった添加物は使わない、遺伝子操作の食品を利用しない、合成洗剤をやめてせっけんを使う、再生可能エネルギーを利用する、たすけあいの仕組みを作り利用する…いつの頃からか大きな経済の力に押され、企業の巧みさに巻き込まれ、私たちの願いとは違う物が目につく社会になっています。

また、高齢化等の社会の変化で、人々の孤立、孤独も社会問題になっています。このようなことに対応する事業を起こし誰もが安心して暮らすことができる社会づくりを行うのがワーカーズ・コレクティブです。

また、組合員の思いでもあります。思いの種はワーカーズ・コレクティブと共有してきました。

思いを「かたち」にするワーカーズ・コレクティブ

ワーカーズ・コレクティブは「事業」です。各々が社会的立場に立ち、そこからワーカーズ・コレクティブ運動を発信していくことができます。健康に配慮した食を作りたい、困りごとと一緒に解決したい、お互いに助け合い、いつまでも楽しく生き生きと働き、「私」の存在を地域で感じられたら…様々な課題や思いを持ちながら、誰でも働くことがかなえられる場を作ることができます。

生活クラブとワーカーズ・コレクティブの描いている未来図は同じです。思いの種を共有し、地域に根差し、開花を目指します。これからも一緒に考え行動していく、双輪の関係を作っていきましょう。

生活クラブ生協埼玉 理事長 石井清美



レトロな商店街の空き店舗を生かし、 地域とつながるお弁当屋 キッチンとまと



JR 武蔵野線「南越谷」と東武東上線「新越谷」の駅の交わる場所からバスで5分、住宅街のなかに日の出商店街が現れる（現在は蒲生ショッピングモール）。1960年代、一挙に住宅開発が進んだ地域にこの商店街が作られた。高齢化、産業構造の変化で商店街は大きく変わってはいるが、かつては活気にあふれた商店街であったことを思い返す。この場でお弁当屋を営む「キッチンとまと」は、高齢者が元気に働く場だ。

働く人は60代から80代

午前9時30分、本日のお弁当メニューの鮭フライタルタルソース、シュウマイなどを3名のスタッフで手際よく弁当箱に詰め、男性スタッフは配達先に運ぶ準備を同時進行で行っている。その日は7時頃から作業を始め、55食ほどのお弁当を作っていた。作業に熟練したスタッフは、あっという間に55食を完成させてしまう。作業がひと段落した頃、商店街の向かいの以前は八百屋さんだったお店から女性が歩いてきたと思ったらメンバー最高齢の北澤さん。この日はシフトには入ってないけれど一緒にお茶タイム。お弁当が仕上がってしまえば、ゆっくりとした時間が流れる。メンバーの居場所にもなっている「キッチンとまと」のいつもの風景だ。



越谷市の支援を受けて

日の出商店街に出店したのは約16年前にさかのぼる。それまで構えていた店舗の家賃が値上がりしたことから、すこしの間お弁当作りを休んでいたところに、市の職員から空き店舗対策でこの商店街を紹介された。越谷市の空き店舗対策事業費補助金として400万円の補助金があることも知り、移転してきた。この補助金で店舗を改装し、家賃補助としても活用し、無事に再開にこぎつけることができたのだ。

※越谷市空き店舗対策事業補助金

越谷市が実施する商店街の活性化を目的とする対策事業。補助金は店舗の改装費、設備費に活用できる。（令和4年で終了している）現在は「創業者支援補助金」として創業者を支援する補助金制度がある。



手際よくお弁当を詰めるメンバー（左）
できたてのお弁当を車で配達する準備中（右）

配達は見守りも兼ねて

キッチンとまとを立ち上げたのは約30年前。自分たちが年を重ねても働ける場づくり、安心して食べられるお弁当づくりをしようと始めた。越谷の農業を守りたい一心で越谷の野菜を使ったお弁当をつくれないものか市の農政課長のところへ相談に行ったことから、お弁当作りと並行して野菜販売などを行ったりするなど地道に活動を続けてきた。30年という実績もあり、市内では口コミなどで顧客を増やし一定の信頼を獲得している。

高齢の方への配達はもちろん、公民館や大学など配達できれば可能な限り対応し、配達の際は一人暮らしの高齢者の見守りも兼ねてきめの細かい対応をさりげなく行っている。



かつては野菜の直売所も運営していた

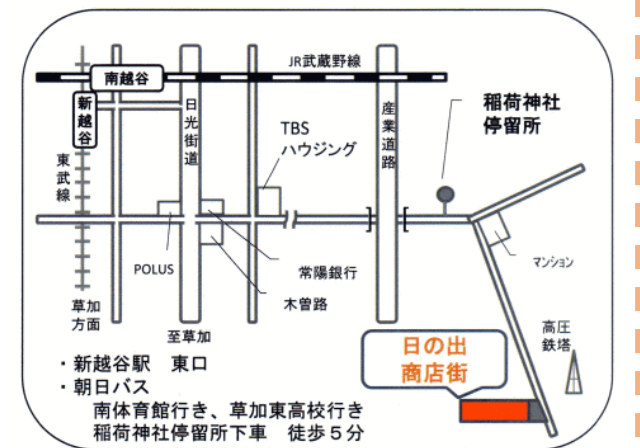
電話が大好きな大野さん。キッチンとまとで電話番、配達の補助を担っている。NPO 法人障害者の職場参加を進める会が運営する six 就労継続支援B型「世一緒」(よいしょ)にも所属している大野さんは現在24歳、キッチンとまとの平均年齢を下げている。



企業組合ワーカーズ・コレクティブ キッチンとまと



1995年、生協の活動をしていたメンバーが集まり、「国産素材で安全なものでつくられたお弁当屋を作ろう」と資金を出し合い、起業に踏み切った。越谷市の農産物を使いたいと農政課と相談し、一時は農産物の直売所の運営も任されていた。2010年、現在の日の出商店街に移転、越谷市の「空き店舗対策事業費補助金」（※左ページに詳細）を活用して新たにスタートした。



越谷市内を流れる元荒川



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

もうすぐ協同組合年がやってくる

2025 年・IYC 国際協同組合年

国際協同組合年埼玉実行委員会発足式と
記念講演会開催

11月21日、さいたま市文化センターの会場を埋め尽くしたのは、県内47の協同組合でした。

埼玉県農業協同組合中央会をはじめ、漁協、森林組合、生協、そして私たちワーカーズ・コレクティブ、ワーカーズコープ。100名近い人々でした。

国連は、協同組合が日頃行っていることを高く評価し、2012年につき、2025年を国際協同組合年と定め、協同組合の発展の年とすることを採択しました。

我が国では、協同組合の理解と振興は進んではいませんが、世界では農業振興、自然環境保護、人と人の多様なつながりなど今日の社会に貢献し、特にSDGsに大きく貢献していることが評価されています。

これは事業体を通じて人々のニーズに応え、持続可能であり、必要な経営資源を生み出していることがほかの株式会社等とは大きく違うところです。

発足式では、この国際協同組合年を機に協同組合への理解と共感を広げる機会とすることを実行委員会で確認しました。

具体的な活動内容については、記念講演として、日本協同組合連携機構（JCA）代表理事専務である、比嘉政浩氏が話されました。

情報発信、学習会、国会等への働きかけ、各地でのイベントの開催などを予定しているそうです。

中でも、1995年に国連で採択された「協同組合のアイデンティティに関するICA声明」が今日の世界が直面する課題に対処するために改定が予定されています。

多くの協同組合は指針としてきたこの【アイデンティティ】がどのように改定されるのか注視していきます。

私たちワーカーズ・コレクティブは、働く人の協同組合、協同労働の発展、周知する機会としてこの国際協同組合年を活かしていきたいと思います。

10月
1日から



こんにちは、
「労働者協同組合
ワーカーズ・コレクティブ
クローバー」です

共同購入ワーカーズのクローバーです。10月1日付けで労働者協同組合へ移行いたしました。

これからも新しい可能性を求めて、メンバー21名で頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



NPO 法人から
労働者協同組
合へ移行しま
した

11月
1日から

「労働者協同組合こうさてん」
となりました。

2011年にNPO法人として設立したこうさてんは協同労働を実践してきました。

法人としてはサイズが合わない服を来ているような感じでした。この度、労働者協同組合に簡便に移行できる期間内に移行を済ませました。

